

ワークショップ 3

「消化管における translational research」

司会 高山 哲治（徳島大学大学院医歯薬学研究部消化器内科学）
鈴木 秀和（東海大学医学部内科学系消化器内科学）

消化管は、消化器内視鏡を含む画像診断の進歩により、小腸粘膜をも容易に採取することが可能になり、診療現場に多くのミクロの情報をもたらしている。さらに、病変局所に直接到達可能であるため、治療のパラダイムを大きく変化してきた。多数の遺伝子を同時に調べるがん遺伝子パネル検査などで、個々の患者様の体質や病状に合わせて治療などを行う「がんゲノム医療」の時代、次世代シーケンス法の進歩で、消化管内細菌叢情報を正確に把握できる時代が到来したのである。シーケンス技術も、メチローム、RNA-シーケンス、シングルセルシーケンス、微生物に対するメタゲノム解析など大きく進歩した。本ワークショップでは、臨床医学の発展に繋がる消化管に関する基礎研究を中心に幅広く公募したい。